

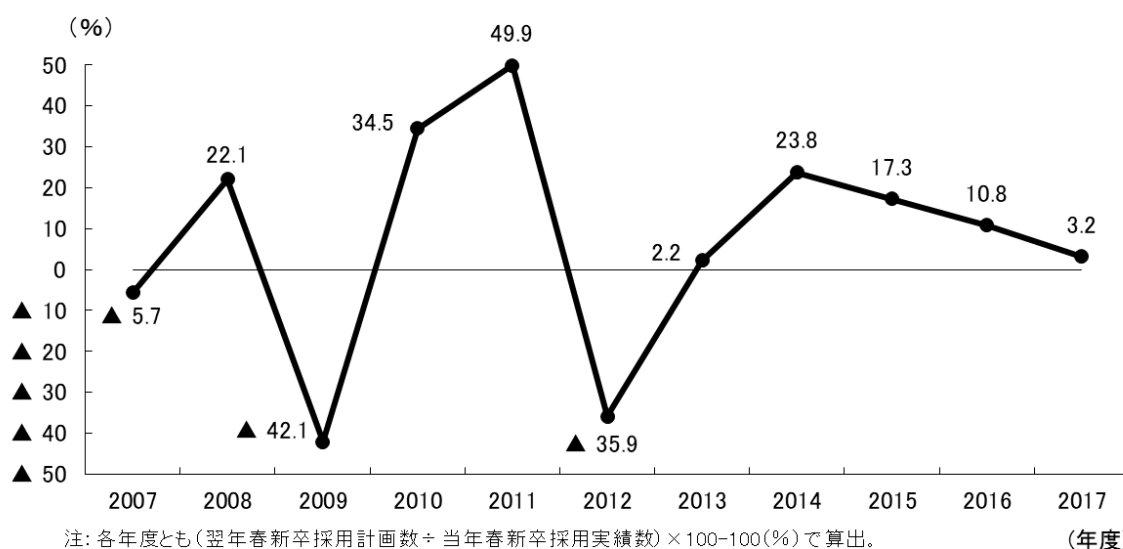
2017年度 採用動向

2018年春の新卒採用数は+3.2%

県内民間企業の採用動向に関するアンケート調査(有効回答115社)によると、回答企業が2018年春に計画している新卒者採用人数は620人で、2017年春の同採用実績601人に比べ、19人の増加となる見込み。2018年春の新卒者採用計画と2017年春の採用実績とを比較した増減率は+3.2%と5年連続のプラスとなったものの、前年同調査(+10.8%)を7.6ポイント下回り、増勢は鈍化した。

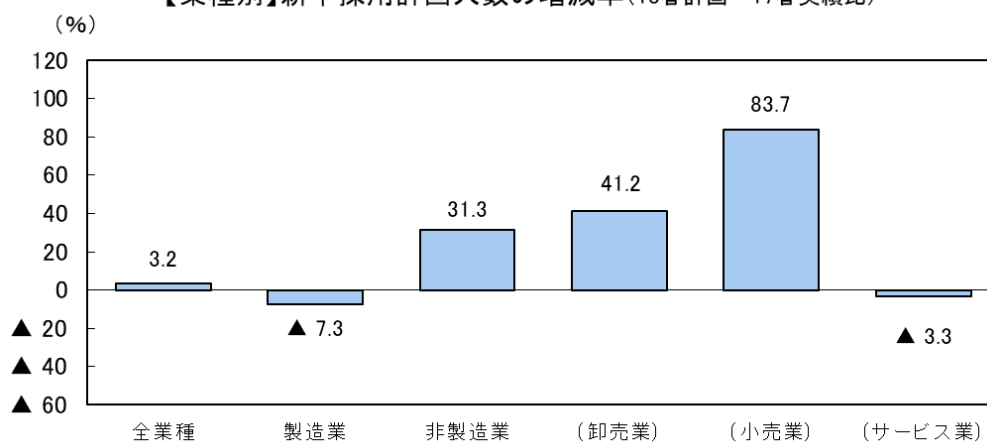
2018年春の新卒者採用の増減についての企業割合(社数構成比)を見ると(3頁)、同採用人数を2017年春の実績数より「増やす」と回答した企業割合は全体の37.4%と、前年同調査(38.4%)を1.0ポイント下回った。また逆に「減らす」と回答した企業割合は、前年(12.8%)を1.1ポイント上回る13.9%であった。さらに、「同数採用」と回答した企業割合は、前年(13.6%)を1.2ポイント上回る14.8%、「前年と変わらず採用なし」が前年(35.2%)を1.3ポイント下回る33.9%となった。このように、総じてみれば企業の新卒者の採用意欲は引き続き積極姿勢を保っている様子がうかがえるものの、前年に比べれば増勢は鈍化した。

翌年度新卒採用計画人数の増減率推移(今年度実績比)



2018年春の新卒採用計画人数について業種別に見てみると、採用計画人数620人のうち製造業が406人と全体の約2/3を占め、非製造業の214人を大きく上回った。2018年春の採用計画と2017年春の採用実績との増減率においては、製造業は一部で採用を抑制する動きが見られたこともあって▲7.3%(前年同調査▲2.7%)と2年連続のマイナスとなった。一方、非製造業は+31.3%(同+49.4%)と増加幅は縮小したもの引き続き高い伸びとなっている。非製造業を業種別に見ると、小売業が+83.7%と突出して伸び率が高く、次いで卸売業の+41.2%となっており、この2業種が非製造業全体の伸び率を押し上げている。この間、サービス業は▲3.3%と減少した。小売業の伸び率が高いのは、2017年春の新卒採用充足率(4頁)が64.2%と低く、直近の採用が予定数に達しなかった企業が、新卒採用を翌年の2018年春に繰り越したことも一因と考えられる。

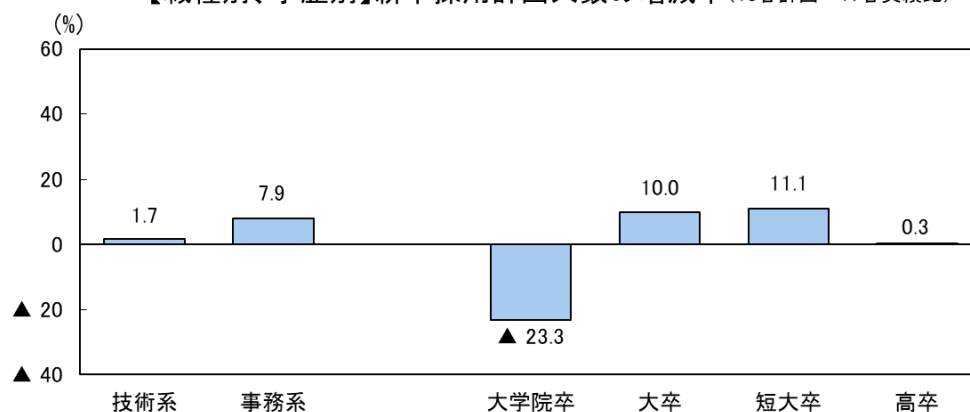
【業種別】新卒採用計画人数の増減率(18春計画-17春実績比)



次に、2018年春の新卒採用計画人数について職種別に見てみると、採用計画人数620人のうち技術系が469人と全体の約3/4を占め、事務系は151人となった。これを2017年春の採用実績との増減率で見ると、技術系が+1.7%(前年同調査+4.9%)、事務系が+7.9%(同+34.5%)と、技術系より事務系の伸び率の方が高くなっている。これは、2017年春の新卒採用充足率が、事務系は86.4%と技術系の95.1%より低く、2017年春に新卒者を十分に採用・確保できなかったことが一因とみられる。

さらに学歴別の増減率を見ると、大学院卒が▲23.3%(前年同調査▲23.2%)、大卒が+10.0%(同+31.5%)、高専及び専修学校を含む短大卒が+11.1%(同+32.7%)、高卒が+0.3%(同▲0.4%)となった。大卒・短大卒は採用意欲が高い反面、大学院卒は2012年同調査以降6年連続してマイナスと、頭打ちになっている。

【職種別、学歴別】新卒採用計画人数の増減率(18春計画-17春実績比)



2018年春の新卒採用を増やす企業は37.4%

2017年春の新卒採用実績と比較して、2018年春に同採用を「増やす」と回答した企業割合(社数構成比)は全体の37.4%と、前年同調査(38.4%)を1.0ポイント下回った。また逆に「減らす」と回答した企業割合は、前年同調査(12.8%)を1.1ポイント上回る13.9%であった。さらに、「同数採用」と回答した企業割合は前年同調査(13.6%)を1.2ポイント上回る14.8%、「前年と変わらず採用なし」が前年同調査(35.2%)を1.3ポイント下回る33.9%となった。このように、総じてみれば企業の新卒者の採用意欲は引き続き積極姿勢を保っている様子がうかがえるものの、前年に比べれば増勢は鈍化した。

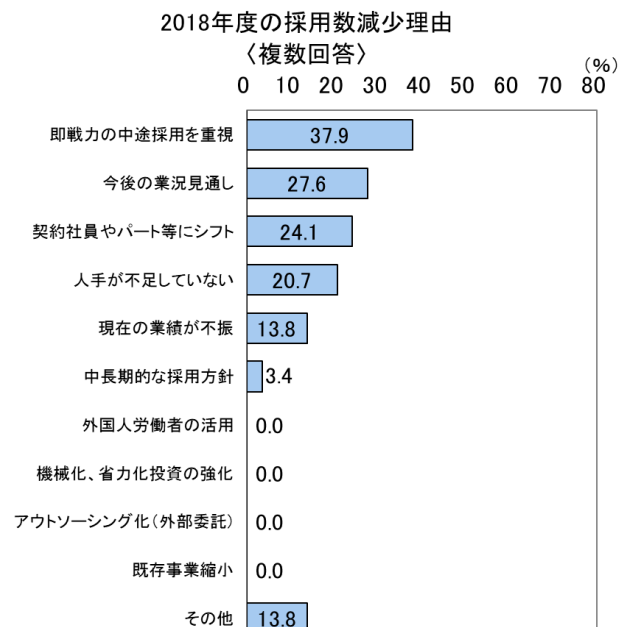
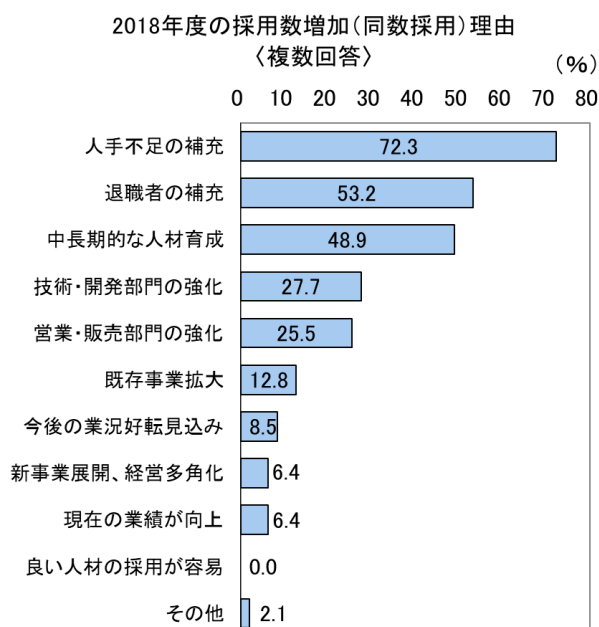
これを業種別に見てみると、製造業の「増加」割合が47.2%と非製造業の32.9%を14.3ポイント上回っているが、「増加+同数採用」割合で見ると、製造業52.8%で非製造業の51.9%とほぼ同数となっており、全産業で同傾向であることがうかがえる。

2018年春の採用人数を増加または同数とした理由(有効回答47社、平均回答数2.6)は、「人材不足の補充」が72.3%(前年同調査55.4%)と最も高く、以下「退職者の補充」が53.2%(同40.0%)、「中長期的な人材育成」48.9%(同66.2%)と続く。「人手不足の補充」はその回答割合が、2015年35.5%→2016年50.0%→2017年55.4%→2018年72.3%と年々上昇を続けており、人手不足が逼迫し、深刻化している様子が表れている。

また、減少の理由(有効回答29社、平均回答数1.4)としては「即戦力の中途採用を重視」が37.9%と前年同調査18.8%を19.1ポイント上回ってのトップで、以下「今後の業況見通し」27.6%(同25.0%)、「契約社員やパート等にシフト」24.1%(同6.3%)の順となった。

2018年春新卒採用計画と2017年春同実績との比較

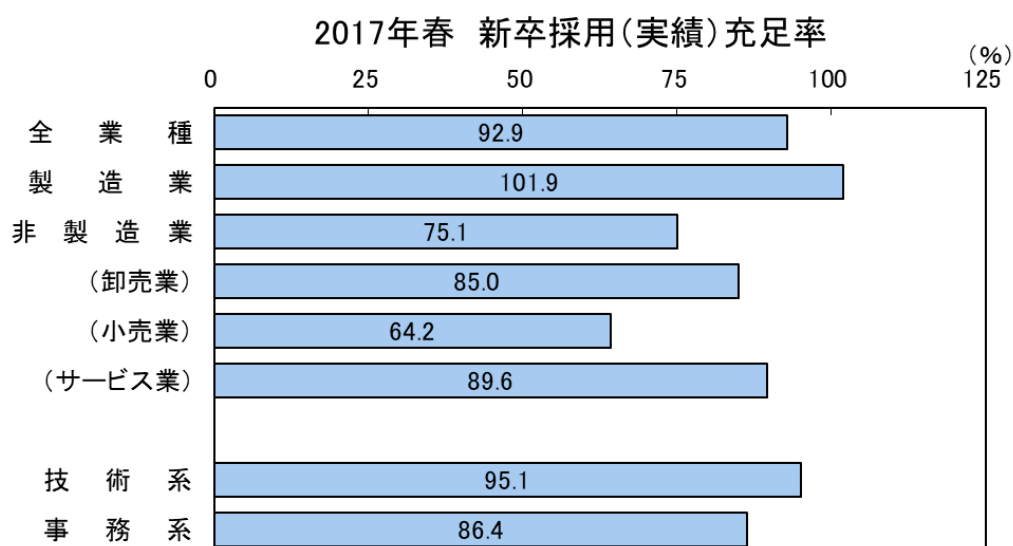
業種	回答社数	社数構成比(%)			
		増加	前年と変わらず		減少
			同数採用	採用なし	
製造業	36	47.2	5.6	30.6	16.7
非製造業	79	32.9	19.0	35.4	12.7
全産業	115	37.4	14.8	33.9	13.9



2017 年春新卒採用の充足率は 92.9%に上昇

2017 年春の新卒者の当初採用計画人数 647 人に対し同採用実績人数は 601 人で、当初の採用計画に対する充足率は 92.9% (前年同調査 88.6%) と、前年より 4.3 ポイント上昇した。業種別に見ると、製造業は 101.9% で前年の 98.7% から 3.2 ポイント上昇し、非製造業でも 75.1% と同 68.8% から 6.3 ポイント上昇した。業種間の開きは前回 29.9 ポイント→今回 26.8 ポイントとやや改善した。非製造業においては、特に小売業が充足率 64.2% と前年の 77.6% から 13.4 ポイント悪化するなど、2017 年春に新卒者を計画通りに採用できなかった企業が散見され、結果的に翌 2018 年春の採用意欲の高まりにつながったと見受けられる。

職種別では、技術系(生産部門、技術・開発部門等)の充足率 95.1% (同 94.0%) に対し、事務系(事務部門、営業・販売部門等)は 86.4% (同 72.1%) と技術系より低くなっている。



2017 年度の中途採用は減少傾向続く

2017 年度中の中途採用人数(2018 年 3 月までの中途採用計画を含む)は 367 人と、2016 年度の中途採用実績 427 人に対し▲60 人(増減率▲14.1%)となる見込み。業種別では製造業が同▲22.4%、非製造業が同▲1.7%で、職種別では管理職が同横ばい、技術系同▲16.9%、事務系同▲7.1%とほとんどが減少している。企業の中途採用意欲は強いものの、中途採用市場での人材不足が見られるほか、人件費も上昇傾向にあることなどを背景に、中途採用での人材確保が難しい状況となってきたことがうかがわれる。

— 調査要領 —

調査時期	2017 年 11 月下旬～12 月下旬
調査方法	所定の調査票によるアンケート方式
調査対象	県内主要民間企業 306 社
有効回答	115 社